幼児の教育
家庭-保育所-幼稚園
'97年 12月号
倉橋惣三
保育へのロマン

「倉橋は決して古くない！」。日本保育界の巨人・倉橋惣三の思想・理論を現代保育の現場に生かす道を明らかにした注目の本。月刊誌「保育専科」に好評連載されたものをを中心に書き下し部分を加え、今日の保育現場で使えるように、分かりやすく的確に倉橋理論を解説します。

A5判 220頁 定価 本体2,000円＋税
冊子中出しセックス「最高 意外に

班井 順巻

え・っと 殘念です

冊子中出しセックス「最高 意外に

班井 順巻
乳児は赤やおむつの濡れを泣いて訴える一方で、母親やそれに代わる人が育つことが必要です。母親が乳児の発達課題である人間やこの社会に対する愛情や基本的信頼感を身につけないと、幼児期からの依存を保持されてしまう。発達の初期は、自分たちの力で行動し、自分の責任をもつという自立感が育ってきた力で必ずおとうとを信じる。この自立感、初めてするということはうまくいかないが、何度もするうちに上手になるという有能感などを身につけつつ、律儀に育ってきた力を必ず使うとすると。特に自然や人に直接触れ、それらと心をかよわせ生きる工夫や楽しみこそが経験することの意味は大きい。

個体の発生は系統発生を繰り返すという生物学上の仮説の原則がある。胎内で、原形の海で発生した生命が人類にまで進化する過程が胎児の姿で現れた。人類発達の歴史を踏まえることから注目しなければならない。人類が文化を獲得するために、最も重要な条件は直立歩行であった。前足が解放されて手になったのである。

物を掴む、振り回す、叩く、投げる、ちぎる、折る、砕く、掘る、埋める、積む、崩す、立て、倒す、というような作業が可能になる。木や石や土や水などの素材に取り組み、それを使って獲物を捕らえ、衣服を作り、住居を整えるに至った。数の概念にしても、十進法の根拠は両手の指の数以外にはない。こうした姿は、まさに遊びを中心とする幼児の生活を呼ぶためとさせるものである。私たちがしのばれる従来の実体だ。
近代の教育は自立の教育である。現代が求めているのは自立した個人が連帯して生きる教育である。連帯とは命のつながりを意味する。環境を離れて個体はなく、すべての生命はつながっている。幸せに生きる力の核心部分が幼児期の原体験にあることを思い、先人たちの献身的な努力によって掲げられた幼児教育の灯を一層大きなものにして新世紀につなげることを、持論を繰り返して願わずにはいられないのである。

（昭和女子大学）
りうると思うのです。父親でも、お前なんか出てい
けと言うことがあるのです。いや、教師として、そ
んな相手を傷つける。とげのある言葉は一切言わな
い。教師はいつも平穏で、寛容で、柔和である。や
さしい、理解のある対応をしている。そんなお体裁
の、もっともらしい釈明を聞くだけではことはすむ
まいと思うのです。

教育は教師と子供、親と子どもの、むねと組
んだ格闘なのです。教師は親だけの独り相撲でな
いのです。一一で切り結んで、一つ一つ、相手の
反応にあらわれ、万物があるのです。お前なんか
出ていけと親父が言った。ああ、出していてやる。
こんな家にいるものかと息子が言う。ありうること
はっとして、すまん、すまん、ついてひとりことを
言って、と教師が詫びる。いや、先生、ぼくは悪い
のです。ぼくこそ、生意気なことを言いたいですと
子どもの態度に、教師が思わず胸を熱する。それ
どうが詫びる。ありうるのです。急に素直になったと子
どもが詫びる。あまりにも、親が詫びる。いや、先生,
どもが詫びる。あまりにも、親が詫びる。いや、先生,
どもが詫びる。あまりにも、親が詫びる。いや、先生,
きびしく自らを責めながら、その健気さをただえ続
けました。

お前なんか学校にくるなと教師が言い、少年が狂
暴化した。それは説明の原理解なしで、少年たちに
負けるなと励ます。不屈であれ、不撓であれと望
む。それが指導の原則なので。

「けっぱり先生」とは山口隆の名作です。けっぱ
る先生は山口隆の名作です。けっぱり先生は学校
生と頑張る先生ということです。生徒たちを信じ
の女子高校の校長です。卒業式に「仰げば尊し」を
歌わせるのです。自分は至らない人間だ。駆け教師だ。思うこと
の万分の一もしてやれない。子どもたちに何もでき
なかった。一人一人の生徒の前に土下座をしてあや
まりた。それを、「仰げば尊し」などと歌われた
なら、それこそ穴があったら入ってしまいたい心境
だ。そう言うのです。

猪股先生は魅力のある先生でした。誠実で、熱心
な校長でした。生徒の心をとらえて放さないので
して、各所で生徒たちが会っていました。高校生まで続き
母の男の子高校でも盛んでした。ある日、その男の
子が生徒達が大勢で猪股先生の部屋に押しかけてきた
ことがありました。ヘルメットをかぶって、みなタ
オルで固く覆面をしておりました。そんなもののは猪
股先生には全く効果でした。ゴーヤーチャー言っ
てうる生徒たちに、ホラ、そこの右にいるのが木村だろ
う。こっちは田中だ。何だ、君は吉田君じゃないか。
言い放った生徒は、思わず覆面をとります。下からあ
どけない高校生の顔がのぞきます。みな、間に緊迫
うな、照れ臭そうな顔をしています。猪股先生はそれほ
ど、大勢の生徒の一人一人を知っているのです。
しっかりと把握しているのです。校長に女がいる。そんな噂が立ったことがありま
す。たぶん、いかにも親しみのあることがありました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを聞いたという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もいました。

二人が抱き合っているのを見たという人もありました。校長がしっかりと助け起こしたので
ありません。校長がしっかりと助け起こしたので
「仰げば尊し」も実はすごく感動的な話の展開が
「けっぱり先生」も実はすごく感動的な話の展開が

その時です。遠雷か　地鳴りか　突然　ウォーッ　

手に手に卒業証書の筒を持って　女生徒たちが路地から校舎を出つつある　一方　

手に手に卒業証書の筒を持って　女生徒たちが路地から校舎を出つつある　一方　

に　その合唱は美しく　高く　響いていきました　

に　その合唱は美しく　高く　響いていきました　

止まらず　止まらぬ　校舎は窓をあけ　絶叫し　

止まらず　止まらぬ　校舎は窓をあけ　絶叫し　

消すことはできないのです。
校長は歌うという。その気持ちは深いと思うので。それでもなお、女子生徒たちは仰けは尊しと歌うのです。教師と生徒、その二つが々々に生き、躍動して、教育があるのです。私はそう思うのです。

* おやじさんが

少年の作文があります。題は「おやじさん」。

ぼくの父は小樽の村長で木の皮をむく仕事をし、手紙を読むということが一番大事なことだと言っていた。

に日に下まえ、朝から晩まで汗を流して働いていた。学歴のないおやじさんは、ただまじめにコッコと。

やっとこのことを思い出している。僕は今思う。ほんとうにおやじさんにとってはたまたま僕が学校の勉強、仕事にかかったあると。

算割り算は教えてくれなかったけれど、男の仕事といえば、おやじさんが毎日毎日、酒を飲んで来て家で大あばり。

家の中のある場もなお、僕にとっては、小さい時間いつも僕をおんぶして風呂に行き、からだを洗ってくれたおやじ。僕はおやじさん自体に酒をやめてもらったかった。僕はおやじさんに対し中学生の頃、このパクおやじさんを殺してやりたいと思うこともありました。でも酒を飲まないといつもおやじさんが小さい時いつも僕をおんぶして風呂に行き、からだを洗ってくれたおやじ。僕はおやじさんと相変わらず好きです。

でも今日考えてみると皮肉なようだが、僕だけがおやじさんの人間はとても好きだ。僕は酒がとても嫌ぐ感じられたことを覚えておきたい。僕は酒がとても嫌ぐ感じられたことを覚えておきたい。
さんは仕事だけはどんなに酒を飲んでもよいような
二日酔いになったが、大きなおやじさん年をかけた朝
僕は一度社会に出事に就いた。一度は中三の終
わり頃、卒業する前に札幌のある会社に勤め、そこ
toと出し、一、二か月小樽で一日一食という生活
toし、その後も悪と間と小樽の盛り場をうるつ、
遊び、いよいよどうにもならない、ある人の紹
介で、また札幌のペンキ屋に勤めました。そこも
三か月でとび出しました。
そんなことを持つ度あく返したのも、いろいろな
ことが起こり、家庭学校に授業をなることになり
ました。あの一年前の僕におやじさんがたいたな
性、そして意地、一つ所でコップ仕事の続ける強
さがあれば、僕も失敗しなかったと思います。僕は
下まくてもコップットもを嗜み上げていけるよう
人間になりたい。ここへ来るとおり、おやじさんが
言っていた。
「陽一、おれもう年だなあ。もうあまり酒も飲
めなくなってきた。おれも酒が飲めなくなったらう
確かにあの大酒飲んで大あられしていた時よりは
飲まなくなった。でも僕がおやじさんの会社で一緒
に仕事をしていた時は、毎夜酔面をコップにあった
くる。あの時はいやだっただけれど、今思えば一緒に付き合いたい気持ちがある。焼酎飲みあればおやじさん、掛け算が出来ないのに読めるぶつをするおやじさん、僕の顔を見ると酒飲め飲むといおやじさん。おやじさん。今日はおやじさん。今日も裸電球の下で、一人でコップをたたむけていると思います。

おやじさん。飲みすぎないように。飲みすぎたら見境がなくなるからと自分に言い聞かせてほどほどにしてほしい。今も思い出している。小さい頃おやじさんにおぶさって道を歩いていたことを。僕の手にはチョコレートが。おやじさんの手には一升瓶があっただけで思い出される。今日も明日もおやじさんは一人部屋で酒を飲んでいる。

人間接触の中心で、何と深く思いやりを培ってくれたことだろう。いつまでも心に残る文章を書き残して学校を出ていった。

教育は出来るだけ良い環境を与えて、子どもたちにすくすぐに育ってもらいたいと願う人間の営みである。その願いに燃えて、国は文教の施策を進め、都道府県、市町村はそれぞれに多額の負担をして教育の施設を作り、親たちは家計の多くを教育に注いでいる。今日、日本の教育諸制度は空前の盛況を呈している。しかし、私たちももう一つの願いを持っている。こんな悪い環境にも負けない子どもであってほしい。楽しむように創意と勇気を持った子どもであってください。
はるしと願っている。しかし、よく考えてみると、この二つの願いはそう簡単に両立するものではない。何事も練習なのです。練習に練習を重ねて、人間はものごとに習熟できるのです。悪い環境にも耐える。それでも、その練習が十分と言えるか。はなはだ疑わしいのです。

教育は基本的に、この矛盾した願いをもった者が、二つの中心を持った横木というべきで、何故か、教育の内蔵する根本的矛盾を知らず、満たす。良い環境、良い環境と一方的に思い込んでしまい、また、深い落差の穴に落ちたのです。

教育力の原点はこのような趣意を、力をこめて書いたものです。それも理屈としてでなく、現場の事実として書き下さった方々がいる。それも研究者の中にいる。それには私にとって、大へん嬉しいことです。

（北海道家庭学校理事長）
「くハハハハ...」

百楽の発表会第1回

第7回

ー

ー

ー
「ジュンバン」がよくわかって
いなかったこうすけ君

四歳児クラスのこうすけ君は、一月生まれ。
二歳児クラスに入所した当時は、言葉もあまり
なく、自分の気に入らないことがあると突然、
「おおμけに倒れてただただ泣きわめくだ
け、なつかかな気持ちを立て直すことがむつかし
い」といった男の子でした。四歳クラスになっ
て、さすがに泣き出すことまりないといったこ
とはなくなりましたが、まだまだ「ジュンバン」
の思いの強さを前面に出すので、友だちとの
関わりもうまくもって、マイスソースの行動が

こうすけ君順番ぬかしはるは、
二月初旬の給食の準備の時のことでした。小
齢の高い女の子たち数人が、スープの入ったお
べの横にズラリと並び、「こうすけ君、順番に
かしはる！」と怒っています。見ると一番
前には、こうすけ君がお玉とスープカップを手
にブッっと怒って突っ立っています。
私は「こうすけ君、順番に並んでたんか？」
と問いました。女の子たちは声をそろえ、
「なんだからへん！。」とにかく早く用意をしたい
という思いで頬から手出したこうすけ君は、
素直に認められないといった顔で、かたまって
突っ立っています。

「こうすけ君、みてみ、こっちに順番にならん
だはるんや。一人、二人、三人、ほら、こうす
け君の次やなんかと私がいうと、ようと自分
から列の後ろに並びに行きました。でも、悲しくて、くやしくて、声にならない声で涙をポロポロっこにした。自分に弱がいてとてもその気になっ
てしまった。自分に弱がいてとてもその気になっただけで、結局もっと後まわしになってやっと、自分を
自分でスープを入れました。私は、今までならただ大声で泣いていただけ
だったであろうこうすけ君が、口惜しい涙を流
して汚れたことに、ひっとしながら、自分を
客観視できたのかかもしれないと思いました。
翌日の給食の時、スープなべの前に二番で並ん
dこうすけ君が後ろに向かって、「おい順番
に並ぶんだぞ！」と声をかけているのです。私
は順番ということも、早生まれの幼さを残した
四歳児にとっては、いつも他の後ろにつくこと
であり、意味はよく理解できていないこともある
のだということを学びました。

この後こうすけ君は、急にクラスの生活に目
が向き、片付けに積極的に関わり出しました。
そして、二月末のやはり給食の準備中のこと
で、総理大臣が「こうすけ君がしっかりした口調
ぎない男の子に、こうすけ君がしっかりした口調
たクラスメートは、素直に後ろにまわりました。

つまり、さなぎからチョウになる瞬間のよう
ますます、さなぎからチョウになる瞬間のよう

— 19 —
保育所の二歳、四歳クラスの子どもたち

保育所の二歳、四歳のクラスは、めまぐるしく発達し気を抜くことのできない一歳クラス、発達の大きい節目を乗り越えていく二歳、三歳クラス、そして保育所の保育の総仕上げとして位置づけられる五歳クラスとの狭間で、比較的手の掛からないクラスとして位置づけられていることが多いように思います。でも何度かこのクラスを担任するなかで、二歳、四歳クラスは朝のおわかれ الصادرも、ひとりひとりの子どもたちを失敗し、これまでのタイミングがあわないばかり、失敗ばかりかしておとなたちを困らせることがしばしばありました。一歳児の時たんなる「イヤ」や、だっこでなく、「ジブンガ」を強く主張する「イヤ」なので大人にとってはとてもやっかいです。
ジブンのことばはジブンで決める！

私たちの保育所の二歳クラスでは朝のおやつ
のあと、お昼寝前、お昼寝後の回、排泄時間
を決めています。

りょう君はこの春入所したばかり。保育経験
はありませんが、おとなしいことをよくする
素直な男の子です。お母さんは入所する前にあ
ってオムツをとってきました。間隔も長くて
トイレでちゃんとできるようになった。

おひるねの前もろーりやがります。無理
にトイレに行かれるため、手洗い場ではお風呂
もできるし、ついでに手洗い場で水あそび
もできるのでトイレに行くのが大好きでした。

保育所生活に慣れてきて、保育者との信頼関係
もできてきた。五月上旬のある日、「お散歩に行
くからおしっこをしてね」という保育者に
言ってある日散歩でかかる前、りょう君が
トイレに「いかない」といったあと保育者が
「じゃあ、いいよ。りょう君がいきたくなかった
らいってね」と言ってみたのです。りょう君は
部屋を走り出てきました。そして、一分もた
たないうちに再び「おしっこ！」と走りこんで
きたのです。そんな日が三日ほど続きたおひる
ね前「りょう君おしっこいっている！」とこね
おととの母たちの元気な娘に変身するため、二歳、四歳クラスの全員として「ヤンパーズ」をしっかり主張できる元気な女の子に変身しました。そしてどちらかといえば、引っ込み思案で泣くだけだったゆいちゃんは「やめていい」というと「ええ」としっかりこたえました。

十日ほど前の日が続いたある日トイレに行こうとトイレに行くと汚れていません。トイレをのぞくと汚れていません。
镜中，以镜为镜，自能洞悉虚妄。形影自随，知影所知，方能照见真实。
この点で著者の目は厳しい。福祉も教育も、人間にかかわる仕事だから、対象になる人々が自分らしく生きることに目を注いでいるかどうかが問われている。施設の拡張の反対が強く、施設の内面の実態が描画されている。一九四〇年ごろ、第二次世界大戦中、良心的な医師等が施設に預けられ、施設で働くことを要求された。一九四〇年代ごろ、施設の内情をひろく世間に知らせる機会となり、脱施設化の一助となった。一九八〇年代ごろ、施設は次々に閉鎖され、あと数年で米国の居住型施設はほとんどすべて閉鎖される。
史は、私たち自身が障害を見る歴史である。

著者は、地域福祉か施設福祉かという現代の問いに欠けているものがあると言う。

それは、生産性、利潤、満足する欲求との関係で、意味と価値をことごとく定義し
限界しようとする社会では、どのような場所にいても知的障害者は拾取されるに違いないということである。その場をあわせ、作業所であると、生産能力によって人間の価値が決
まるのではない世界が作られたときに、障害をもつ人々へも市民として社会に参加す
ることができない世界になるだろう。いずれも我々を取り巻く世界の鏡である。

入所施設への回帰は、いかなる障害者に取っても利にならない。未来について言うなら、知的障害者のみをなさしさを抑えている以外はどれも、この歴史を通して知るよう
に、社会的構成物としての障害の意味を問なければならない。その場合、障害をも
つひとりひとりの人々が見えなくなっただけに、精神遅滞の問題は、我々自身の問題であり、それは不安を伴いながらも大いな
約束を否感させてくれる。（下P.243～244）著者はこの大部の著作を結ぶ。この
歴史に示されるように、障害をもつ人の福祉は四十年前と非常に違ったものになっ
ている。私共自身が障害を見る眼を変えてゆくことができるならば、未来において私
共の社会は真の意味で人間的なものへと高められるだろう。そのことを信じたい。
子どもと時間

はじめに

時計のない環境下で子どもたちは、自分たちの時間をどう使いのだろうか。私たちの
実践計画はそこから始まった。

芹沢 澄子

さいテーマに取り組んでみるとかからならないことだね。
試行錯誤の連続の末、「時計のない環境」を設定でき
かった。その経過を準備調査の段階から実践報告迄をま
とめたものは、第五回目の保育学会で発表されてい
る。

第1報で尾崎は、幼稚園教育の目的そのものを幼児教
育者あるいは保育担当者の立場より考察し、保育者自身
子どもと時の長さ

子どもを育むことに、時間意識が重要な役割を果たしています。特に教育の目的という未来において、現実の教育課題を考慮するための時間意識が求められています。この意識が欠如していると、教育の効果が表れにくいことが多くあります。特に、学校教育においては、時間の管理と計画の立て方が重要です。子どもたちの生活を規定する多くの活動において、時間の管理は不可欠です。

子どもたちの日課に、時間の計画が組み込まれていることが望ましいです。例えば、朝の授業に必要な時間、昼食の時間、休憩の時間、等々です。このような計画は、子どもたちの生活をより規則正しいものにし、集中力や理解力を高める効果があります。元気な一日を過ごすことができるよう、時間の管理が重要であることが理解されるべきです。

このように、子どもたちの時を管理し、計画的に過ごすことが重要であることを理解することが大切です。時間の管理がしっかりと立てられることで、教育の効果がより高まると考えられます。
物語の中には、時計と時刻が重要な意味を持っているものがある。時計がなくては物語は進まないものとして、十七世紀に書かれた「ガリバー旅行記」がある。ガリバーは小人の国にたどり着き、六九年五月四日、そこに滞在すること九月と十三日、その島を離れたのが一七〇一年九月二十四日午前六時と記されていて、ガリバーは携帯（懐中）時計を携えていたと書かれている。

一方、語り部や、物語の作者たちは、子どもたちの発達を促進する方法は、物語の進展やおもしろさをより容易にイメージできるものでなくては、子どもたちに受け入れられないだろう。一方、時刻の概念を把握するためには、子どもたちの発達段階に応じた物語を用いることが必要である。
古い。 昨日は今日よりも先に来たから古い。 と答える
子が多い。 混乱なく理解し、 ことばとしては使うことができる。 では明日はいつ来ますか？
の質問に対し、 今日の次の日。 と答えたのが圧倒的に多かった。 その他「回寝たら来るよ」 「新しく来るのが明日」 「夜中の十二時」
もしくは「明日になる」 「明日から明日になる。」 など
時の経過によってやって来るものと理解している。
飯店に出てくる昔々という昔はいつのことですか
と答え。 又「死んでいった人が生きていた時」
の質問に対して「背が高い」と答える子が圧倒的に多
く。 ベルギーの心理学者ドクソリの年齢観と一致する。
から、 お料理が上手。 大人は仕事をするけれど、 子ど
もは遊び。 大人は顔と洋服とやることが違う。
と、 能力差や社会的役割の違いと結びついた答えも多
い。
では大人になるのはいつ。 の質問に対し、「二十歳に
なると大人になる。 大学が過ぎるしたら大人になり。 婚
結してから」 など、 バコ吸える年になると大人。 答えであり、 時との関連で答えると「まったく」 とか
「ずっと先」 のようになる。
幼稚園児の時の指導

六六年・フレーベル館を引用した。「日常生活を通じて時刻について興味や関心をもたせることをねらって時刻というものを意義に気づくようにする」と言われている。はじめは、「おやっです」「おやっです」などの教育の言葉は、日付によって、幼稚園の生活の中で時时刻刻に気づくようにし、したがって、長くぶらぶらに過ごすのと関係をもつよう導き出す。実践計画の準備段階でも、幼稚園時代の幼児の時刻概念は、時間の物事や自分自身の経験に結びついて形成されていくこと、自分の外に、今の流れを示してくれる時計の存在をはっきりと感じている。これについては、子供から理解される必要がある。

幼稚園教育指導書・領域編自然（文部省昭和四十一年）
時計のない日

一九九七年一月二十七日（月）の午前九時から午後十
二時十五分は、園内外のすべての時計に目を向け
た。私たち保育者は「時計のない生活」を実施した
場合、次のような事態を予想した。

○新しい経験活動をはじめるだろう
○通常より早く昼食が始まるだろう
○園庭で思う存分楽しむ姿が見られるだろう

当日の朝、今日は午前中の時計が見えません。お弁当
tを食べると時間は、ひとりで決めてください。それまでは
先生も時計が見えませんがいつもの通り活動してくださ
い」と各クラス共通のメッセージを用いて園児たちへ伝え
た。そして「時計のない環境下での生活が始まった。は
じめのうち、園内外で遊ぶ園児たちは、いつもと変わ
らないように見えた。やがて十分経過した頃になる
と、いつも習慣となっている生活の節目、屋内から屋外
への活動の切換え、それぞれ用いえた教具の片付けなど、
自発的に行いが必要にならないことは見受けられない
とわかりました。

一方保育室の一隅では年長児Aと年中児Cは「オセ
ロしよう」と声をかけ合ってオセロの盤と駒を準備す
る。ジャンケンで順番を決め、AとCが対戦することに
なった。その間Bは対戦の様子を見ながら、年中児Cの
手が進まないと、「あそこにおけば、五つ斜め取りがで
きる」と助言をしながら、Cに次々と駒を渡す手伝
いを

（３５）
同時に手前の机で年長児三人（D・E・F）が将棋を始める。こちらも三人グループだが、観戦役のFも時々勝負のつき具合を話したり、テレビのアニメのことを話題にしながら進んでいる。通常は三試合の途中で時計に残っていないが、今日は四回五回と時間を全く気にしないで出る。「まだやってても大丈夫だぞ」と時計を気にせずにできるという意味で、Fが思い出したようにに述べる。オセロの駒を渡す。将棋の駒を揃える。本を持ってきて目を廻した、オセロの駒を渡す。将棋の駒を揃える。本を持ってきて目を廻した、オセロの駒を渡す。将棋の駒を揃える。本を持ってきて目を廻した。
り参加しているように見える。オセロでのC、将棋でのFを対戦中の二人が受け入れている様子がわかる。「時計のない日」の終わりを告げる、「お昼の音楽の時間です」という放送が流れる。瞬時驚いた顔を見合わせると、片付けと昼食の準備に立ち上がった。「活動期間中に一番多い教師への質問は、「今、何時頃ですか」というものだ。すぐは答えられない保育者も時計をもっていないので、子どもと一緒に考え、適当に答える外にない。ぶらぶら移動する子が少ないことに気づく。二時間で過ごした頃になると、昼食時間忘れて思い思いの活動を熱中する子が多く、このままどうなっていくだろうかという不安が教師たちの胸中を横切る。今、いくら頑張りますか？という質問を教師、園児にしてもみる。一人だけ時計をもって行動している調査委員によると、もう成長の方、幼児よりも体内時計は正確だったようだ。一つの見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の立場に対して、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負んでいる教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負ている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負いている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負いている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負している教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負いている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負ている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負いている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負いている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負いている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負いている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負している教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあり責任を負っている教師の見方として、指導の立場にあ
生きられる幼稚園空間の
二つの次元

榎沢 良彦

保育の世界を見る（5）

現象学から

はじめに

幼稚園という空間は外部の空間から区切られ、一つのまわりをもった空間をなしています。一方、内部的には、幾つかのサブ空間に分かれています。たとえば、玄関、廊下、教室、図書室、等というように、名前をつけています。子どもたちがこれからの空間の意味を体験しているときに体験している意味とは必ずしも一致してはいません。例えば、子どもたちは図書室で遊ぶこともあれば、職員室で遊ぶこともありますが、場合によっては、子どもたちにとっては同じ意味を持っていると言えます。

幼稚園内を区切ってつけられているサブ空間の名称は、それぞれその四面に記入されていることもあることがからわかるように、子どもたちが実際にそこで身を置いていくことにより、その空間の意味が形成されるのです。
うがいまいが関係なく与えられている、いわば「客観的な意味」です。それに対して、実際にそこに身を置いているときの「主観的な意味」を、子どもたちの行動、振る舞い、経験内容からいう言えます。子どもたちの行動、振る舞い、経験内容は、この空間の主観的な意味によって左右されていま
す。保育をするということが、子どもたちに何らかの経験を積ませていくことに限らず、そのときどきの子どもたちの保育者は、幼稚園空間が子どもによって、主観的にどのように理解されるのかを理解する必要があ
るでしょう。そこで、本稿では、生まれている幼稚園空間の構造を明らかにするための手掛かりとして、幼稚園空間のもう一つの次元について考えようと思いま
す。

一、限定的な意味空間

限定的な意味空間には、それぞれに固有な認識の仕方があり、その相違によって各領域は区別されます。子どもたちは遊んでいるのでは、日常生活の「生活世界」と呼ばれるのですが、それも「限定的な意味領域」の一つです。限定的な意味領域には、それぞれに固有な認識の仕方があり、その相違によって各領域は区別されます。子どもたちは遊んでいるのでは、日常生活の「生活世界」と呼ばれるのですが、それも「限定的な意味領域」の一つです。
ます。こうして、子どもたちは幼稚園において、いろ
いろな世界を生きていると考えることができます。

世界が変われば、それに応じて子どもたちにより生
きられる空間も変わります。なぜなら、一つの限定的
な意味領域では、その領域固有の仕方で空間が体験さ
れるからです。例えば、同じ遊戯室であっても、遊ん
deているときや、終了式のような儀式に参加していると
きては、子どもたちは異なった仕方でその空間を体
験します。「遊びの空間」では、子どもたちはそこに
存在する物と戯れることがでできますが、「儀式の空
間」では、物は戯れの対象にならないのです。

このように、一つの限定的な意味領域には、それに
対応した空間が生まれることになります。この限定的
な意味領域の許で体験される空間を「限定的な意味
間」と名づけることにしましょう。ここで、一つの限
定的な意味空間の例を見てみましょう。

場面一　劇の世界になった広間
　　（一九九五年一月三〇日）
　　キョンは、年に一度の子どもたちの祭りの日。広間は子ど
もたちと父兄で一杯であり、ステージが作られ、カー
テリが引かれ、照明が用意され、小さな劇場になって
いる。子どもたちは、すでに観客が待っている劇場へ
と、クラスごとに並んで入場していく。どの子どももき
うの日を待ち望んでいたらしく、呼びかけたり、私
の身体を叩いたりしながら通りすぎていく。いつもな
ら、私に身体ごとぶつかけるのが、きょは、軽く叩くだけである。ステージの前の席に子どもたち
はクラスごとに座り、よい子どもたちが始まる。

年中組の劇が始まる。照明を落としたり、スポット
ライトを当てたりと、かなり本格的に演じている。
子どもたちは自分たちで考えた劇だけに、一所懸命演
じようとする意思が強い。友だちの役も演技までよく
わかった。夫とは「ちがう。……だ」と、友だちに指示したりする。子どもたちは演じることを意識し、協力して行っている。年少、年長の子どもたちはその劇を食い込むように見ていている。歌の場面になると、一緒に歌いだす。観客の子どもたちは完全に劇に引き込まれている。父兄たちも、思わぬ笑い声を上げたと、子どもたちの劇を楽しんでいる。

ここでは、広間は小劇場となり、一つの劇の世界を生み出しています。子どもたち、広間はいつものように遊び回る空間ではありません。それゆえ、子どもたちはいつものように観客の子どもたちは劇の世界を作り上げることに参加してしまっています。それは、広間にいる子どもたち全員が、この広間を劇の世界が生まされる空間（劇場）として生きていくことを意味します。広間を「劇の空間」とさせていているのです。もちろん、劇場らしく設定された環境でもあります。設定された物的環境が、広間をいつのまち子どもたちと一緒に引き込まれた子供たちを演じているのです。
さくせ、それが劇の空間に変貌するであろうことを予感させます。しかし、それは予感にすぎません。広間に

に、本当に劇の空間という限定的な意味空間にあるの
は、そこに集まる子どもたちと父兄たちです。彼らが
共に「劇の世界を生きようとする態度」をとるやいな
や、広間は「劇の空間」になるのです。つまり、一つ
の限定的な意味領域は子どもたちが態度変更するこ
とににより生まれてくるのであり、それとともに、
空間も一つの限定的な意味空間に変貌するのです。
こうして、ひとたび広間が「劇の空間」になると、
その空間内の諸物は、それまでとは違った意味を帯び
ている。したがって、子どもたちは普段とは全く違
う行動をするようになります。例えば、ステージの前
を突っ切ったり、広間を走り回ったりはしません。そ
ういう行動を引き起こすようなものとして、諸物が存
在してはいないのです。子どもたちは自ずから劇の世
界を作り上げていくよう振る舞いをするということになる

二、子どもの存在を支える空間

幼稚園空間は、前述のように、いろいろな限定的な
意味空間が生まれる空間です。それらの意味空間は、
例えば、「劇の空間」、ゲームの空間」、「こっこの空
間」等と名づけられるように、子どもたちが何らかの
意味ある行動や活動を展開することを前提に考えられ
ます。ところでは、「生きられる空間」は、活動の相違
によってのみ構成されるわけではありません。どんな
活動をするかという以前に、どのように存在できるか
という次元で子どもたちは空間を体験しています。

場面二 スイートボレット作りが行われている保育室
（一九九六年四月十七日）
つま芋で、きょうは年少児たちがスイートポテトを作ることになった。

部屋の中央にテーブルが置かれ、担任のY先生を中心に、数人の子どもたちが集まっていた。満面の笑いを浮かべたY先生は、テーブルでアルミカップに盛りつけていた。「マラージュ」と言っていた。「丁度M子がつまみ食いをし、Y先生にたたなられ、スプーンを洗ってくるように言われ、神妙な表情をしていた。テーブルには、八人の子どもたちがいて、すぐに私に気づき、笑顔で、「おっけっとう、みんな コッくんみたいだね」と話しかける。T夫は「よ、誕生日みたいだね」とみんなに向かって言う。自分で作ったスイートポテトを私が見せてくれた子どもたちも、みんな子もいる。後から登園してきた子どもたちも、Tableに来ては、興味深そうに聞き込み、参加す

Y先生にたたなまれてしまおうと、M子は再び加わり、明るさを取り戻す。この保育室では、子どもたちは後で実際に食べられるスイートポテトを作っていく。M子は、長時間スプーンを洗っていたが、やがてテーブルに戻ってきて、「スプーン洗った」と報告する。Y先生が「Mちゃんもそのスプーンでスイートポテトを作って」と頼むと、M子は再び加わり、明るさを取り戻す。
生きていると言えます。

M子は最初、他の子どもたちと同じように、スイートポテト作りを楽しんでいました。ところが、Y先生にたしなめられたために、それまでの楽しさが消え、沈んだ表情になってしまうようになりました。料理作りがクリーミーだという「活動の場」でもあったのですが、M子はその場から締め出されてしまったのです。M子の周りの子どもたちも、彼はみんなの楽しい気分を共有しているのに、M子だけがその気分を共有できずにいます。M子はその場に相応しい在り方ができなくなってしまっています。それゆえ、当然のことながら、何もすることができなくなる、この日、保育室ではスイートポテト作りだけが行われていました。しかもそれに担任がかかわっているため、子どもたちにとって、担任がなかったという存在は、M子の身体を自然に引きつける。それに対して、M子は自分の存在を引きつけてくれる場所です。このときには、M子は自分の存在を引きつけてくれる場所と、自然に引きつれる存在とこの空間が違和感なく密着し、一体となっています。その存在として体験していたと言われます。言葉換えれば、自分の存在を支え、可能にしてくれている空間」と感じていたのです。
す。M子は、保育室が
身の置き所のない、よそそし
い空間になってしまったり、僅かに
関じ込まれ、自由を奪われ
なったのです。

M子はスプーンを洗っ
t了と報告しました。それはY先生の許しをもら
いたかったからで、締め出され
たかったからです。Y先生は
M子のその思いに気づ
り、M子に「Mちゃんもそのス
プーンでスイートポテト作っ
tって」言ってやってるまし
た。その言葉で、保育室が再び「存在を支える空間」
に変わり、M子は締め出されていた「料理作りの空
間」に戻ることができました。墮れていた担任との関
係が立て直されることで、M子と空間との親密さが回
復されたのです。

このように、子どもにとって、保育者の存在は絶大
な重みを持っています。子どもたちにとっては、自分
注
(1) シュッツ
社会的現実の問題
一八
五年、三八
(富山大学)

五年、三八
(富山大学)
平成の問題をとりあげ、保育所と幼稚園の関係について考えてみたい。

幼稚園令がしめしたものの

幼保の二本立てをはっきりと制度化したのは戦後の児童福祉法と学校教育法の成立であるが、内務省（後に厚生省がわられる）管轄の託児所などと呼ばれた社会事業の保育施設と、文部省管轄の学校系の「幼稚園」という保育施設の二つのタイプがあった。

前者は戦前「保育所」として制度化されるまでは国の規定もなく、必要と状況に応じて、目的も内容も形態も様々なものが各地で行われていた。これに対し後者は、まず中央に国立の幼稚園がつくられ、そのの後者、まず中央に国立の幼稚園がつくられ、その一方で、地方の教育行政に係る保育所である。したがって、保育所が保育所的、あるいは社会事業的性格をもつことを時代の要請としておおむね求めている。

幼稚園令は入園年齢について従来どおり三歳から就学までと規定し、但し書かせて特別の事情がある場合は三歳未満の幼児の入園も可としており（六条）、その背景が「幼稚園令及び幼稚園令施行規則制定の要旨並びに施行上の注意事項」（文部省訓令第九号）で次のように説明されている。
幼稚園の規定にもかかわらず、その後も幼稚園は家庭に対する支援を必要とする。保護者がこれを実現するためには、国から地方自治体までの支援が必要である。このためには、幼稚園の保育施設の充実と地域の保育力の向上が不可欠である。
<table>
<thead>
<tr>
<th>名称（所在地）</th>
<th>沿革・幼稚園認可</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1 三田幼稚園（芝区三田四国町）</td>
<td>大正4.10認可</td>
</tr>
<tr>
<td>2 有隣国幼稚園（檜橋区柏木）</td>
<td>昭和44.8開設、大正4.11認可</td>
</tr>
<tr>
<td>3 三崎愛の園幼稚園（神田区三崎町）</td>
<td>大正6.3認可</td>
</tr>
<tr>
<td>4 和田堀保育園幼稚園</td>
<td>大正14.5東京府社会事業協会和田堀保育部開設、昭和2.10認可</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>大正14.7東京府社会事業協会尾久保保育部開設、昭和2.12認可</td>
</tr>
<tr>
<td>5 尾久保保育幼稚園（荒川区尾久町）</td>
<td>大正14.5東京府社会事業協会大島保育部開設、昭和3.4認可</td>
</tr>
<tr>
<td>6 大島保保育幼稚園（城東区大島町）</td>
<td>昭和3.4認可</td>
</tr>
<tr>
<td>7 宮代幼稚園</td>
<td>大正6.10福田会保育園開設、昭和4.2認可</td>
</tr>
<tr>
<td>8 福田会亀戸幼稚園（城東区亀戸町）</td>
<td>大正11.9保育園として事業開始、昭和5.9認可</td>
</tr>
<tr>
<td>9 愛満幼稚園（城東区亀戸町）</td>
<td>大正13.本所ベガシヤホーム幼児託児所開設、昭和6.2認可</td>
</tr>
<tr>
<td>10 菊川幼稚園（本所区柳原町）</td>
<td>大正14.5四恩生会幼稚部設立、昭和7.7認可</td>
</tr>
<tr>
<td>11 東京幼稚園（大塚坂下町）</td>
<td>昭和6.4開園、6.6認可</td>
</tr>
<tr>
<td>12 マハヤナ幼稚園（豊島区西巻鴨）</td>
<td>昭和6.9メソジスト派の保育事業として開園、6.8認可</td>
</tr>
<tr>
<td>13 愛満学園幼稚園</td>
<td>昭和5.9本田カネにより設立、昭和7.7認可</td>
</tr>
<tr>
<td>(南足立区西新井本木)</td>
<td>昭和5.4猿江善那館の保育業務として開設昭和7.8認可</td>
</tr>
<tr>
<td>14 亀有幼稚園（南葛飾区亀有町）</td>
<td>昭和6.4内鮮婦人会創立、保育部設置昭和9.3認可</td>
</tr>
<tr>
<td>15 猿江善那館幼稚園（深川区住吉町）</td>
<td>昭和12.3認可</td>
</tr>
<tr>
<td>16 子どもの家幼稚園</td>
<td>昭和13.1認可</td>
</tr>
<tr>
<td>17 共労館吾嬬幼稚園（向島区吾嬬西）</td>
<td>昭和14.7東京育成園コドモの園幼稚部開設、昭和15.9認可</td>
</tr>
<tr>
<td>18 梅田上宮館幼稚園（足立区梅田町）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>19 コドモの園幼稚園</td>
<td>(世田谷区上馬町)</td>
</tr>
</tbody>
</table>
用を考慮していること、等によって判断する。社会事業として公的に認められていることが明治三十三年野口幽香『斎藤峰』によって設立された「二葉幼稚園」である。

東京都公文書館には、戦前期東京府の私立学校認可、認可の際の興味深い状況を知ることができることが、この一部について述べてみよう。

表に示した約二〇か所の社会事業の幼稚園が存在した。

東京都公文書館には、戦前期東京府の私立学校認可時の文書が保存されており、このなかによって、それぞれの社会事業の幼稚園の設立、認可によって、それぞれの社会事業の幼稚園の設立、認可は同令により設置されたものとみなされた。表中の1-3がそれで、このうち「三田幼稚園」について紹介してみよう。

幼園設立認可願
本会は此度疑子の社会的保護に関する無料幼稚園を東京都芝区三田四丁目十二番地に開始致し度候間御認可相成度別紙相添此段御願申上候
園舎に充てた。目下幼稚園トニテ何等設備ヲモ施シラズ（東京都教育学による調査結果の復命書）と

認可も受けたものである。幼稚園令に示した社会事業令の受け止め方ハ複雑で、必ずしも歓迎するものではなかったが、幼稚園令以前に社会事業

認可も受けたものである。幼稚園令に示した社会事業令の受け止め方ハ複雑で、必ずしも歓迎するものではなかったが、幼稚

認可も受けたものである。幼稚園令に示した社会事業令の受け止め方ハ複雑で、必ずしも歓迎するものではなかったが、幼稚

認可も受けたものである。幼稚園令に示した社会事業令の受け止め方ハ複雑で、必ずしも歓迎するものではなかったが、幼稚

認可も受けたものである。幼稚園令に示した社会事業令の受け止め方ハ複雑で、必ずしも歓迎するものではなかったが、幼稚

認可も受けたものである。幼稚園令に示した社会事業令の受け止め方ハ複雑で、必ずしも歓迎するものではなかったが、幼稚

認可も受けたものである。幼稚園令に示した社会事業令の受け止め方ハ複雑で、必ずしも歓迎するものではなかったが、幼稚

認可も受けたものである。幼稚園令に示した社会事業令の受け止め方ハ複雑で、必ずしも歓迎するものではなかったが、幼稚

認可も受けたものである。幼稚園令に示した社会事業令の受け止め方ハ複雑で、必ずしも歓迎するものではなかったが、幼稚

認可も受けたものである。幼稚園令に示した社会事業令の受け止め方ハ複雑で、必ずしも歓迎するものではなかったが、幼稚

認可も受けたものである。幼稚園令に示した社会事業令の受け止め方ハ複雑で、必ずしも歓迎するものではなかったが、幼稚

認可も受けたものである。幼稚園令に示した社会事業令の受け止め方ハ複雑で、必ずしも歓迎するものではなかったが、幼稚

認可も受けたものである。幼稚園令に示した社会事業令の受け止め方ハ複雑で、必ずしも歓迎するものではなかったが、幼稚

認可も受けたものである。幼稚園令に示した社会事業令の受け止め方ハ複雑で、必ずしも歓迎するものではなかったが、幼稚

認可も受けたものである。幼稚園令に示した社会事業令の受け止め方ハ複雑で、必ずしも歓迎するものではなかったが、幼稚

認可も受けたものである。幼稚園令に示した社会事業令の受け止め方ハ複雑で、必ずしも歓迎するものではなかったが、幼稚
図2 猿江善隣館幼稚園

昭和五年に竣工した同県立猿江アパート構内に、幼児育児福祉を目的に成立した「猿江善隣館幼稚園」が開設された。昭和七年六月十六日幼稚園としての認可を受けたものが表の12〜19である。

園の規則の上で「目的及び目的」には「本園は、満三歳以上、尋常小学校に就学する迄の幼児を保育し、親の心身を健全に発達させるべき」「これを行うための施設を設け、園内に設けられる施設」を計画した。

詳細は図2をご覧ください。
（株式会社週刊現代） "問題が起こる前に" 中田英明

（株式会社週刊現代）
ある日の育児日記から

佐藤 和代

ある日、有が突然言い出しました。「ゆううっ名前、やめた。えっ、だって、やめたようだか、何を考えてるんだか。そして次の日、「ゆうね、さとうって名前もやめたよ。あいのよ、名前って、勝手にやめたりしちゃったりできるのかね、名前って、向きがって困らせるだろうか。この子、耳に社会常識、あるのか、これでどうするの？「しんいち」と呼び掛けると、「違うでしょう、しんいちでしょ」と言っ

始末です。二歳のころ

末は、何でも「自分です」

ある日、有が突然言い出しました。「ゆううっ名前、やめた。えっ、だって、やめたようだか、何を考えてるんだか。そして次の日、「ゆうね、さとうって名前もやめたよ。あいのよ、名前って、勝手にやめたりしちゃったりできるのかね、名前って、向きがって困らせるだろうか。この子、耳に社会常識、あるのか、これでどうするの？「しんいち」と呼び掛けると、「違うでしょう、しんいちでしょ」と言う

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分です」

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はた

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はた

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はた

有はとにかく「自分で

有はとにかく「自分で

有はた

有はた
香港到着

今井 七重

一九七七年四月一日、私たち家族は、歴史的な返還を前に控えた香港啓徳空港に到着しました。主人公の転勤に伴い、約三年の予定でホットな街・香港で暮らす事になったからです。

近いとはいえ、異国での生活ですので、親として小学校三年生及び一年生の娘たちの健康面、安全面、環境面を配っていたものの、当事者たちはまるで旅行にいくかのようなもので、転勤の話が出てから終始こ機嫌です。

一番の懸念だった小学校の選択には三通りありましたが、現地校（広東語を主とする）、及び日本人学校です。当初、せっかくの海外だからとインターナショナルを考えていましたが、海外子女教育財団の方や実際に海外にいっている方々と相談した結果、日
は思えない雰囲気をもった贅沢な建物もあることながら、

本人学校に決めました。二人の娘がまだ、小学校中低学年であり、日本語が確立していないこと、二年間という時期が英語をマスターするには短かすぎる事、仮に英語をマスターしたとしても、日本に帰ればすぐに忘れるとも言葉に過ぎない事、日本語をある程度確立してからの方は、第二言語の習得は効率的である事、子どもたちの第一言語を日本語とするなら、今時の時期の日本語はとても重要である事等勘案したからです。英語に固執するより、言葉に不安のない環境の中で、のびのび生活しながら日本とは違う様々な面を、肌で感じる事の方が重要だと考えました。

香港には既に三十年以上の伝統ある香港日本人学校がありますが、年々増加する生徒数に対応できず、ここにきて限界。二学年、七クラスもありました。八年前から新設校の建設を考えはじめ、今年度ようやく香港日本人学校タイポー校新校の運びとなりました。吐露窪を臨む緑豊かな広大な敷地、とても小学校と

香港島にあり、国三制度の香港らくしく、一校二学級制です。こちらは九月開校で、各学年一クラスから二クラスの国際学級を予定しています。日本語学級の生徒たちも早朝、休み時間、昼食、清掃等を一緒に過ごす事で、異文化に少しでも自然な形で触れる事ができます。又、夏休み以降、日本語学級で図工のイマージョン教育も行われ、学生の習得よりも、一緒に過ごす事で、異文化を自分の目で見て、肌で感じて、そしてその違いを絶対するのではなく、認め理解できるようになってくれればどんなにいいかと迷わずタイポー校を希望し、入学・転入が許可されました。

こんなにすばらしい環境なので、もしかすると人
気殺で入れないかもしれないと思っていましたが、毎日のように地下鉄で、体を動かして帰宅します。どちらもお部屋の近くに住んでいるので、近所の住民たちとおおらかに話すことが出来ます。地下鉄はいつでも、どこへ行こうとも、いつも同じ路線を通り抜けるのが好きです。それにより、毎日が新しい体験を提供してくれます。
ことは、ビルの中、ときには平屋の建物の中に魚屋、八百屋、肉屋、乾物屋、漬物屋、豆腐屋、等が狭しと並んでいて、安くて新鮮、パックでなく量売りをする街市が、いかにも香港らしくて好きです。しかし、難点は、臭いです。魚や肉、独特の香辛料等がミックスした形容しかたい強烈な臭いが、かなり離れただころからでも分かります。まず、それに耐えないから、一歩足を踏み入れると、巨大な肉の固まりが、天井から垂れ下がる。しかし臭い、難点は、臭いです。廣東語は広東語が主流のため、できない私にとっては辛いものがありますが、現地の人たちと交流できる場所の一つです。今後も多いに利用したいと思っていいます。

七月一日より香港は、中国に返還されましたが、政治的には色々あるのでしょうか。日常生活には全く変わりません。まるでそういった事実があったことすら忘れられる日々です。これからも、一主婦の見た香港の様子を綴っていきたいと思います。

（元幼稚園児の母）
現象学から保育の世界を見る(1) 田原空
間に住みつくことと他者のまなざし

現象学から保育の世界を見る(2) 田原空
間に住みつくことと他者のまなざし

大きくなくなった子どもたちにつきあう

大きくなくなった子どもたちにつきあう

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子

子ども時代と私

手作りのぬくもり

千羽喜代子
ある日の育児日記から(79)

佐藤和代

幼児期の水遊びと大人になってからと

あそびはひっぱりもののがたり

震災後の子どもたち(17)

すとうあさき

ゆさぶられて

穴井 重行

保育における「記録」について思うこと

滝倉 真樹

子どもたちの視線

上坂 元道里

子どもたちの生活と福祉の歴史(3)

段沢 良彦

保育における相互性

佐藤みどり

ある日の育児日記から(80)

松本 由子

子どもたちの生活と福祉の歴史(4)

横沢 良彦

保育学文献賞を受賞して(1)

佐藤 和代

子どもたちの本から

松本 由子

木の秘密

佐藤 和代

子どもの時代を生きた少年たち

田嶋 一

戦争の時代を生きた少年たち

長山 信子

家族の再生の道を探って

伊集院 理子

子どもの世間

著者:英子

夢の日々(二人で入園し、三人で卒園)

西頭三雄子
伴奏なんかこわくない
あそび歌からはじめるピアノ、ギター伴奏術
◆繁下和雄 著
楽器の扱いが苦手の保育者向け。ピアノ、ギターなどこれ一冊をマスターすれば、いろいろな曲が簡単に弾ける、ほとんどのあそび歌の伴奏ができるようになる。

手づくり保育シリーズ
11

おはなしマジック
一妖精から贈られた魔法の粉
◆あんざき こういち 著
だれでもできるやさしい手品を紹介。お誕生会やいろいろな行事の集会などに効果のあるマジック特集。
しかもマジックがおはなし形式で構成され、子どもはもちろん大人にも十分楽しめる。

●内容
三匹のこぶた  どんぐりさん  だらだらさん
三日月のペンダント  ヒツジとオオカミ  にんじんきらい？
びっきりま  ジャックと豆の木  星に願いを
王子ミグルシャ

B5判 96頁 定価 本体2,200円＋税

キンダーブックの
フレーベル館

くわしくはフレーベル館代理店・特約店・支社・支店・営業所または本社営業総括部(03)5395-6608にお問い合わせください。
フレーバル館創業90周年記念出版

現代 保育用語辞典
基本的な保育用語約2,000語を網羅、
50音順に配列し、解説。

弊社創業90年・『キンドゥーブック』創刊70年を記念し、21世紀を視野に入れた情報源・知識源「現代保育用語辞典」を企画いたしました。新しい時代に対応する常備書として、皆様のお手元にご利用いただけることを願っています。

発音を語る時に欠かすことのできない基本的な用語、新しい保育観・子ども親から出てくる言葉などを通して、これからのあるべき姿を分かりやすく示す辞典。

みだし語は英語訳付きで、今の保育に直接結びつける語釈をポイントとし、引きやすく、意味がはっきり確認できる辞典。

編集委員
岡田正章・千羽喜代子・岡野武博・上田礼子・大戸美也子
大場幸夫・小林美実・中村悦子・萩原元昭

執筆者
保育及び保育分野の最高権威者は330名が参画。

A5判・592頁・定価 本体7,767円＋税

保育の基本（全6巻）
21世紀の保育を見直して、今、保育の基本を問い直す。

幼稚園教育要綱や保育所保育指針の中で示されている「保育の基本」は、さまざまな形に受容され実践に移された。しかし、そこに誤解に基づく混乱はなかった。本シリーズは、具体的な事例を通してその混乱をただし、あるべき保育の姿を提案します。

◆第1巻 環境を通しての保育とは
◆第2巻 生活を通じての保育とは
◆第3巻 保育カリキュラムを生かす保育とは
◆第4巻 自由の中で規律が育つ保育とは
◆第5巻 発達に合わせて援助する保育とは
◆第8巻 総合的指導による保育とは

編集委員
森上史朗（青山学院大学教授）
高杉吉子（子ども保育総合研究所）
今井和子（東京成徳短期大学助教授）
後藤節美（別府市石垣幼稚園園長）
田中貴行（東京都両綱幼稚園園長）
渡辺英則（横浜市港北幼稚園副園長）

●今特に問題となっていることを各巻のテーマに
●子どもに寄り添う保育を●これからの保育への提案

A5判・各216頁・セット定価 本体12,000円＋税

キンドゥーブックの
フレーバル館

くわしくはフレーバル館代理店・支社・支店・営業所または本社営業統括部（03）5395-6608にお問い合わせください。